

すべて、
予約が
必要です。

「那須で100年コミュニティをつくる会」セミナー

新しいコミュニティで最後まで暮らす方法

これで解決! 「ひとりの老後」

「那須で100年コミュニティをつくる会」では、最後まで安心して暮らせるコミュニティを参加型でつくる計画をたてています。この取り組みを「ひとりの老後」の新たな選択肢としてご推奨いただいている松原惇子さんを講師としてお迎えします。セミナー後、当協会理事長近山恵子より、那須プロジェクトのご報告をする予定です。



松原惇子さん
●プロフィール
39歳の時に「女が家を買うとき」で作家デビュー。「クロワッサン症候群」は流行語にもなったベストセラー。ユーモアたっぷりの本音トークは多くの女性の共感を得ている。現在は「個を生きる女性たちのためのネットワーク」NPO法人SSSネットワークの代表を務める。

日時:2009年5月16日(土) 午後2時~5時
講師:これで解決! 「ひとりの老後」 松原惇子さん

定員:80人
会場:女性と仕事の未来館

那須プロジェクトからの提案
(社)コミュニティネットワーク協会理事長 近山恵子

〒108-0014 東京都港区芝5-35-3
TEL03-5444-4151 FAX03-5444-4152

▼現地見学会

「那須100年コミュニティ」予定地を見に行こう!

● 4月19日(日) ● 5月15日(金) ● 6月6日(土) ● 6月7日(日)

4日間共に以下のスケジュールです。

10:10 新白河駅 改札口集合

東北新幹線 なすの251号 東京 8:36 ⇨ 上野 8:42 ⇨ 新白河 9:56

●昼食代、交通費は自己負担となります。

▶新幹線ご利用の方 那須塩原駅 16:30解散

▶新宿駅行きバス利用の方 道の駅 友愛の森にて16:00解散



▼「那須での暮らし方を考える会」

● 4月26日(日)

時間:13:30~

場所:中目黒「びーぼ音楽とハーブの教室」

〒152-0004

東京都目黒区鷹番2-15-18ホワイトガーデン202

TEL:03-3712-8606

●申込みの方には詳細をお送りします。

● 5月31日(日)、6月28日(日)

時間:14:00~

場所:東銀座七十七銀行ビル3階

〒104-0061 東京都中央区銀座 4-14-11



イベント・セミナーのお申込みは、(社)コミュニティネットワーク協会まで

TEE: 03-3547-3882 FAX: 03-3547-3883

なす那須通信

発行:「那須で100年コミュニティをつくる会」(社団法人コミュニティネットワーク協会)

〒104-0061 東京都中央区銀座4-14-11 七十七ビル3F TEL:03-3547-3882 FAX:03-3547-3883 E-mail:support@conet.or.jp

vol. 8

「那須での暮らしを考える会」が
スタートしました。

2月14日の第1回、「那須での暮らし方を考える会」が開催され、22名の方々にご参加いただきました。設計士によるコンペ優勝案の説明と、参加者のみなさんから費用や住まい方、那須の自然との付き合い方、仕事、医療、建物などについての活発なご意見ご希望やご質問が出され、活気あるふれる会となりました。那須での暮らし方のイメージを膨らませる第1歩を踏み出すことができたのではないのでしょうか。

第2回は3月22日に参加者16名で開催されました。1回目に膨らんだイメージを、より具体的な計画へと発展させるためのアプローチとして、同じテーマに興味を持ったもの同士で議論し発表する場を設けました。衣食住を取り巻く環境や医療・介護などのテーマをもとにグループに分かれ、那須の暮らしを豊かにしていくための議論をスタートしました。

第2回
「那須での暮らしを考える会」

《ワークショップの内容紹介》

ひとつ地域で、それぞれが満足感をもって暮らしていくためにはどんな環境が必要になるのでしょうか? 人と人が助け合い持てる力を存分に発揮するためには? 自己も他者も余計な我慢を強いられることなく楽しく尊厳をもって暮らすことができるよう、一つひとつ丁寧に考えられるべきことはたくさんあります。まずは、ここに参加した人たちがどのような希望をもち、どんな構想を抱いているのか、丹念に拾い上げ検証していく機会をもつことにしました。

今回は、那須プロジェクトの設計に関わる部分の詳細を決定してため必要なハードとソフトの両面から、必要不可欠と思われるもの、あったら良いという希望、こうであってはならないという懸案事項などを、設計、食、医療・介護の3つのテーマに沿ったグループにわかれ、意見を出し合い、最後に参加者全員で検討しましたので、その一端をご報告します。



■ 設計(共用棟の活用の仕方)……参加者6名

設計士を含む6名で検討しました。主に共用棟をどのように活用するかをテーマに、それはどのような利用ができるか、すべきか、年月が経った時にどのようなのかといった利用運営の細部に重点がおかれた話し合いが興味深かったところです。

音楽室の設置や温泉中心の棟があったらいいのではないかなどの生活に文化を求めるもの、介護室、セミナー室、お泊まり保育、学童保育などそれぞれの世代

に於いて必要不可欠な要素を盛り込み有効利用しようというもの、ゲストルームなど他地域の方との交流について考えたものや、世代を越えた施設の有効活用とはどうしたらいいのかなど、実にさまざまな意見が飛び交い、内容の細かな検証まではたどりつけなかったものの、非常に有意義な発言の場となりました。

■ 園芸……参加者 7 名

食をテーマにした部門には 7 名参加しました。この部門は、食といっても素材選びや調理だけではなく、素材を栽培、飼育することから考え始めたところがユニークです。敷地内を利用し何を栽培、飼育したいか、それをどのように利用したいかというところまで検討できました。

植栽は、花、野菜、ハーブそれぞれ食用にも観賞用にもなり、どんなものをどのような考えで栽培したいか、思っているのか計画をたててすすめるのが理想的です。この話し合いでは、そこから派生してどんなことが可能になるのかといった具体的なプロジェクト構想まで組み立ててみました。主にあがったプロジェクト案は、栽培した食材を使いみんなで料理をし、食への楽しさにつなげようとの想いからレストランプロジェクト、家畜を育て加工品を作る、栽培した収穫物を商品として販売する、また、栽培に関する講座開講やそれに伴うイベント開催などです。なかにはロバで買い物に行くなど独創的な発想もありました。また、バラ園という意見もあり、こちらは空間に華やきが期待できますね。

食べることは人のエネルギーの源であるだけに、事業と自分の楽しみが一体化したような生命力あふれる機動性が感じられ今後が楽しみです。

■ 介護・医療……参加者：6 名

医療・介護関係には 6 名の参加です。こちらは、今まで医療・介護に携わってきたものの経験に基づいた意見と、これから医療や介護の世話になる者の不安や要望など、具体的な問題点や懸案事項が多く発せられ、それらの解決策を練るといった方向性での意見交換となりました。

通院の方法を考えてほしい、医療機関や看護師の体制はどうなるのか、ターミナルとしてどこまで考えているかなどの懸案事項をもとに発表された対応策をご紹介します。

- 看護師が常駐。
- ターミナル、後見人、葬儀、制度、遺書の書き方などの講座を開講。
- 地域のボランティアとの連携。
- 個人で契約したお家そのものをロングステイ場所にできるようなシステムを検討。
- ハウス通貨を可能にする。
- 管理費内でオンコールシステムをつくる。
- 医者と看護師が常駐しなくとも、必要時に適切な判断をする。
- 小規模多機能の導入を検討。以下 3 つの機能を組み合わせるもの。
 - デイサービス：自立生活が不自由な方へのリハビリ型
 - ショートステイ：一人で居ることが難しい方へのスタッフが常時対応型
 - グループホーム：認知症対応型。
- 医療マップの作成。(どこの医療機関を利用するかわかるためのマップ)
- 手頃な暮らし、手頃な価格を目指す。

それぞれ、暮らし方についての多彩な考えをもっておられ、どのような方向に進んでいくのかとても興味深い集まりでした。人生と同じく、コミュニティも集う人によってどんどん姿を変えていくものなのでしょう。次回、どんな展開となるのか、那須プロジェクトに興味がある方は是非参加されてみてはいかがでしょうか？

森林の牧場 7月オープン

アミタ森林の牧場では、3月31日地鎮祭がとりおこなわれ、7月のオープンに向けて牛乳工場棟・牛舎棟・カフェの建築が始まりました。この夏には風がぬける雑木林のなかのカフェで、おいしい牛乳やアイスクリームが楽しめることでしょう。

牧場敷地内の雑木林を間伐した木は、椎茸のほだ木や薪にしますが、大きな丸太は地元の森林組合方たちの手で再生工場に運ばれていきます。少し大人になった、5頭の牛たちも元気に冬越えをしました。



那須と知り合い40年 じっくり向き合い12年 西山直道さん



いつも笑顔をやさしく、おいしいものの話に目を輝かせてお話しになる西山さん。事務所に届けてくださる自家栽培ヤーコンの手づくりりんぷらは絶品です。「楽しいことをやらなきゃだめですよ」とおっしゃる西山さんは、那須町でのいろいろな活動の改善や町広報、県政、国有林などのモニターをなされており、暮らしの中での企画や那須町への提言など、公私ともに精力的な活動を展開していらっしゃいます。

まずは自己紹介しなければなりません、困りました。私は仕事をしているわけでもありませんし、特技もなく、誇れるものはありません。では「これまでの会社勤めがあるだろう」ということになりませんが、残念なことに、退職しましたその日にすべてを忘れてしまいました。いや、ゼロからの出発のために、これまでの会社勤めのことは一切語らない、そのために忘れることにしたのであります。

那須との最初の関わりは 40 年前ですが、本格的な付き合いは 12 年。住所を移しましたのは 4 年前になります。

那須通いの日々、おまえを引きつける那須の町はどんな町なんだあ?とよく友人に質問をうけることがありました。私は即座に「この町のすばらしいところは、ご近所の方々のやさしさ、那須の特産おいしい空気だ」と、答えておりました。そして「いまお前は、何をしているんだ」との問いには「ささやかですが、自分をここまで育ててくれた地域社会へのご恩返しをしている」と応えております。

那須には、その道の達人であるすばらしい人材が大勢おられますから、みなさんのお力をお借りしてすばらしい町にしたいと考えております。

移住後の最初のトライは、県や宇都宮大学のセミナーや交流会などへ、可能な限り参加受講することで

した。講座から得た成果は勿論ですがそこで出会った先生方や、受講にいられた方々と語り合うことで、多くの仲間ができたことが最も大きな成果であり、私の大きな財産になっております。

また、身近な地域社会の活動では、女性の力に負うところが大きく、多くの女性が「地域社会を牽引している」ことを知りました。これには、本当に驚きました。

これまでの私が主たる環境としていた会社というところは、男性中心社会でした。男女共同参画とは、男性が女性を支援して、男性の社会で女性が活躍できるようにするのだという認識しか私にはありませんでした。地域の活動によって、この間違いに気づいたので。そして現在は、栃木県男女参画審議会委員をするに至っています。談=文責・編集部

▶「男性諸君よ！ 会社は男性中心の社会であるが、地域社会での活動に若い時から取り組んでおかないと、リタイアしてから活動の場、出番がないぞ。地域社会は女性の独壇場になってしまうであろう」これは、これから地域に再就職するリタイア後の男性たちに向けた西山さんからの最高の贈り言葉なのしょう。自ら身をもって感じ取った地域社会での男性の心構えを教示する先人のあたたかい一言でした。

岩手の木材加工工場見学に行ってきました。

那須 100 年コミュニティ・コア施設建設にあたっては、品質管理のされた国産材を利用し、壁や屋根をパネル化していくことで部材の無駄を無くすと共にゴミの廃棄量を減らそうと模索しています。今回は、計画的な間伐や伐採、加工時にも植物性のオイルを使う等の環境配慮がなされ、持続可能な管理・経営がされている森林への認証(FSC 森林認証)を受けている気仙地方森林組合に行ってきました。

気仙地方森林組合

岩手県沿岸南部の住田町・大船渡市・三陸町の 3 組合が合併して誕生した組合で地域が一体となって良質な森林を育て、木製品を作り、多世代に渡り森林作りを継承しています。

